

職業実践専門課程 学校関係者評価委員会議事録

開催日：2022年5月26日

時間：10時～11時

場所：102号室（ZOOMでのオンライン併用開催）

メンバー

後山 尚士	（株）ソフトウェア・サービス
岩根 裕典	（株）今日見堂企画
平岡 憲人	清風情報工科学院 校長
林 耕平	清風情報工科学院 学科長
友金 牧人	清風情報工科学院 副学科長
山田 茂	清風情報工科学院 参与
土井 佳己	清風情報工科学院 職員
北澤 賢祐	清風情報工科学院 職員
樋笠 聡	清風情報工科学院 事務局職員

以下の出席者は、オンラインで委員会に参加
委員 岩根裕典氏

議事式次第

- ・開会
- ・学校長挨拶
- ・出席者確認と紹介
- ・デザイン・コンピュータ学科総括報告
- ・シリコンバレー研修報告及び今後について
- ・自己点検自己評価に基づき質疑応答
- ・現在の本校の取組について
- ・閉会 次回開催時期の確認

■学校長挨拶

新型コロナ禍で、テレワーク業務が一般的になり IT 業界への関心が高まり本校への入学者数が増加してきている。カリキュラム編成として3年制から4年制までの内容を今後は教育課程編成委員会でより検討して充実を目指したい。

本校が代表校となりウクライナ学生支援会を発足して、ウクライナ避難民学生を受入日本語とIT学習に取り組んでいる。またクラウドファンディングを立上多方面から支援をいただいている。学習面や基金への支援を継続していただきたい。

■2021年度のデザイン・コンピュータ学科総括について報告

学科長の林委員より昨年度の出来事や対応等について説明

■シリコンバレー研修への取組と実施報告

新型コロナ禍でアメリカシリコンバレーへの渡米実施できず、ZOOMを活用してオンライン授業とバーチャル見学を実施した模様を説明

■2021年度学校関係者評価についての説明および意見交換

(1)教育理念・目標

毎週月曜日に行われている全校生徒に向けた朝礼も、学生・教職員ともに目標を再確認する場として、効果的に機能していると感じます。

回答：職員一同が教育理念・目標を共有して、より深く具体的に教育現場に活かしていけるように努力していきます。

(2)学校運営

新型コロナ禍の中で難しいことが多いと思われませんが、各企業との連携もたやすく事無く引き続き強化する努力をしてほしい。

「卒業進級制作展示会」は学生自身の成長を企業人が評価するイベントであり、新型コロナ状況下で安全面にも考慮して今年も開催できたことは、評価できると思います。

新型コロナウイルス禍の中、ZOOMを活用してオンライン授業への取組を計り、「学習を止めない」ように配慮されている事は評価できる。

回答：企業連携では、年間を通じて連携できる企業を増やし、企業、学生にとって魅力的な場を数多く定期的に提供できるように努力していきます。

コロナ禍の中で引き続きリアルとオンラインを活用した取組を計り早期就職活動に対応できるよう努力を続けていきます。

(3)教育活動

新型コロナウイルスの影響大きく、各企業も先行きが見えにくい状況にある。だからこそ、各企業が新入社員に何を期待しているか、その変化を学生が感じ取る必要があり、学校にはその為の準備をして欲しい。卒業生が実際の現場で感じているリアルな意見を収集できる体制づくりを継続し

て、より企業、業界のニーズに沿った教育を勧めて欲しい。シリコンバレーでの短期研修は、貴重な体験機会であり、オンラインになったとしても継続できて良かったと思う。今後も継続してほしい。

回答：卒業生との連携は継続して深め、卒業生による企業セミナーなども企画していき、活用して、企業によるワークショップ、現役エンジニアによる作品講評の機会を増やしていきたい。シリコンバレー研修は継続して行い、2023年度は現地研修を再開視野に入れて準備をしていきます。

(4)学習成果

1年次には基礎学力と資格取得を目標としており、オンラインでの授業がメインとなった状況下で、例年とほぼ同数の資格取得が達成されたこと、多くの学生がチーム制作の作品を、例年と遜色ないレベルで展示会に向けて完成させられたことは大いに評価できる。

そして社会的な課題解決をテーマとした作品も多く、学生の意識向上が感じられる。

回答：基礎知識と実践的な技術、知識はもとより指摘いただいた社会常識に対してもカリキュラム内に取り入れ教育を行う。特にオンライン授業への工夫にも取り組んでいきます。この先を見据えてコロナ禍が収まった後も、テレワークは続くと考えており、それに対応できる学生育成には引き続き力を注ぎたい。

(5)学生支援

学生の体調やメンタル面について、個々をよく見ていると感じます。

コロナ禍によるオンライン授業特に高等学校での登校に何かと制限があった学生時代を過ごし全日登校で体調が崩す学生がおり注意が必要だと思われます。今まで以上に学生に寄り添った支援を行っていただきたい。その中、専門学校ではあまり行われていない保護者会や保護者面談などをこの状況でも継続されていて、情報共有や問題解決など、保護者と協力関係が出来ていると思われます。

回答：個々への学生への配慮、保護者との連携は、教職員が心掛けて継続します。保護者会をオンラインで実施した結果、例年より多く(特に他府県の出身学生)の保護者参加かがあり、今後も校内とオンラインを併用して実施していきたいと思います。

(6)教育環境

新型コロナウイルスへの対策として、オンライン授業環境づくりや、学生数増加に伴う実習機器や教室整備など充実を図っている。

新任講師には「Webカメラ・インターネットの強化・ZOOMソフトの活用研修」、そして各教室にオゾン発生器や消毒液等を設置などは継続して続けて安全確保に努めていることは評価できます。

回答：引き続き学生の安全を第一に考え、状況に合わせた対応を行っていききたいと思います。

(7)学生の受け入れ募集

オープンキャンパスを年間30回以上と開催されており、また学外広報活動では、高等学校内や会場での進学セミナーに参加し入学希望者に情報を伝える努力をしていると感じる。また、学校のホームページには学生作品・オンライン説明会等の情報が発信されていることで入学を検討する上での判断材料となっている。

回答：入学希望者によりわかりやすく本校の魅力や成果を伝える為、今までの違った環境下で、オンラインを活用した非対面で発信できる努力をしていきます。また、Z世代といわれる高校生に向けたホームページ改定を行い本年度リニューアルに取り組んでいます。

(8)財務

このコロナ禍で、留学生の入国減少による経営的に困窮する学校が増えていると聞きますが如何でしょうか。

回答：デザイン・コンピュータ学科は入学者数が増え、本年度も増加していますが、留学生の入国が心配されていましたが、入国してきており状況は良くなってきていますが、今後のコロナの世界的な状況を見ながら経営戦略を検討する所存です。

(9)法令等の遵守

留学生に限らず、法令遵守や社会生活のマナー等については、専用に時間を設けるなど、よく取り組んでいると思います。引き続き、継続して取り組んで下さい。

引き続き客観的に意見・評価をしていきたい。」

回答：継続して行います。学内でのオリエンテーションでの学生指導及び地元警察との連携で講習会を開くなど行っていきます。

(10)社会貢献・地域貢献

地域の祭礼や清掃活動などに参加する機会はあまり無く、学生にとって貴重な経験になっているかと思います。引き続き継続して取り組んで下さい。

特に祭礼や清掃は周辺地域の方々に学生の姿を見ていただけるため、大切にしているのが学習面だけでないということを知っていただける良い機会であり、継続して行ってほしい。

ウクライナ学生支援会については国内外にも影響あり国際支援活動に貢献をしてください。

回答：昨年度は、新型コロナ禍で祭事は中止となり参加が出来ない事が多くありましたが、再開に伴い継続して行います。本年度は人数制限を伴いながら実施の動きがあり、感染等に気をつけて取組めます。

ウクライナ問題だけに限らず、学習したい留学生への配慮をしていきます。

■2022年度の年間予定の報告

■ウクライナ避難難民支援についての動きに報告

■学校史編纂における作成協力について依頼

上記をまとめ、2021年度学校関係者評価を作成することで合意した。

以 上